

学校法人東京女子大学2015年度事業計画

・基本方針と重点施策

1. はじめに

本学は創立以来、建学の精神である「キリスト教を基盤としたリベラル・アーツ教育」を通して女子高等教育の発展に寄与してまいりました。近年では、国際化、多様化の進む社会に積極的に参画し、活躍する人材の育成に取り組んでいます。2015年度もこうした理念に基づく教育を着実に進めます。

2018年に迎える創立100周年に向けて、創立100周年記念事業計画委員会が本格的に活動を開始しました。本学が、100周年を超えて更なる発展を目指すため、「挑戦する知性」を基本コンセプトとして様々な事業を展開してまいります。

2. 東京女子大学グランドビジョン

建学の精神であるキリスト教主義に基づく人格教育により、「専門性をもつ教養人」として21世紀の人類・社会に貢献する女性を育てるために、「東京女子大学グランドビジョン」を定めました。

キリスト教精神に基づき、人類・社会の問題解決に貢献する女性を育てる。

グローバル化・高度情報化した21世紀の社会を切り拓き、国際社会で活躍する女性を育てる。

教育内容・教育方法の改革に取り組み、主体的に学ぶことを学び、学び続ける姿勢をもった女性を育てる。

「専門性をもつ教養人」育成の原点である本学のリベラル・アーツ教育を、現代社会に活かす形で充実させる。

女性の自己確立と、女性の生涯にわたるキャリア構築を支援する。

ステークホルダーとの関係を強化し、社会との結びつきを強め、社会から支持される大学を実現する。

学習環境を整備し、現代の高等教育機関にふさわしい施設・設備を確保する。

財政基盤を強化し、教育・研究を支える基盤を強める。

3. 重点施策

グランドビジョンを推進していくため、学部教育・大学院教育の一層の充実を図るとともに、以下の項目を重点的施策として進めてまいります。

(1) 教学の改革

(2) 入試制度の改革

(3) 創立100周年記念事業

・教育・研究活動

1. 教学の改革

(1) リベラル・アーツ教育の充実

2013年度には、本学のリベラル・アーツ教育の土台を築く「全学共通カリキュラム」を、キリスト教の精神、女性の自己確立、教養教育など、本学の教育の特色をより明確に反映させ、現代社会に生かす視点で再構築しました。2014年度には、初年次教育の強化のため全学科全専攻に1年次演習を設置するなど、学科・専攻のカリキュラムを一部改正しました。いずれも教育課程の体系性、順次性や科目間の相互関連性を明確にし、学生にわかりやすいカリキュラムにすることで、本学のリベラル・アーツ教育の質の向上を図っています。2015年度も引き続き、学部教育の質保証のために、学修成果、教育効果を測定する教務指標を定め、履修・成績・単位修得状況等について、定量的・定性的両側面からの分析を行ってまいります。特に本学の教育の総仕上げである卒業論文について具体的な評価基準を定め、評価基準の統一化を図ります。

新たな授業の展開

2014年度に制定された「東京女子大学グランドビジョン」には、「大学として育成する人物像」として、「知力（知識）を行動力にするリーディングウーマン」「国際的な視野をもった地球市民としての女性」「専門性と幅広い教養をもった女性」「キャリアをカスタマイズする女性」「21世紀の高度情報化社会に対応できる女性」をあげました。こうした人物を育成するために現在の教育の中ですでに実践されているものも数多くありますが、2015年度には、グランドビジョンに沿った新たな内容の授業を展開してまいります。全学共通カリキュラムの総合教養科目の「総合教養演習（女性の生きる力）」では、企業等から提示された現実的課題の解決を目指すPBL（問題解決）型授業を展開し、現状分析・問題解決策の提示・実行案の作成によりリーダーシップを育むことを目指します。また、100周年記念事業の一環として、国際的視野を育むため国際連合ニューヨーク本部におけるブリーフィングの受講を含む授業も計画しています。

大学教育再生加速プログラム（AP）の推進

2014年度に文部科学省平成26年度「大学教育再生加速プログラム（AP）」テーマ（学修成果の可視化）に応募し、採択されました（全国で8校）。これは、キリスト教を基盤としたリベラル・アーツ教育を通して、専門知識、汎用的能力、倫理性等の態度・志向を涵養し、「専門性をもつ教養人」を育成してきた本学が、リベラル・アーツ教育による学修成果（特に、汎用的能力、態度・志向の修得度）を測定する独自の指標を作成・開発し、アセスメントを行い、その結果を可視化して、リベラル・アーツ教育のアセスメント・モデルを構築することを目的とした取組です。本学の教養教育プログラムが、その目的とする「『専門性をもつ教養人』の養成」に繋がっているか、をトータルに可視化して捉え、本学の教養教育の長所・短所を明らかにした上で、長所をさらに伸ばし、短所を改善する施策を実行します。このPDCAサイクルを機能させることにより、本学の教育活動の恒常的な改善を図ります。本事業を通して、本学の教養教育による人材育成機能を社会に明確な形で示してまいります。

「大学教育再生加速プログラム」は、2014年度後期を準備期間とし、2015年度より本格的な取り組みを始めます。4月にはIR専門委員会に特任専門員を配置し、教学に関するさまざまなデータの収集、調査・分析を行います。また、主に1年次学生を対象に、外部のアセスメント・テスト、学修行動調査を行い、他大学と比較した本学学生の学修の特徴を把握します。卒業生については、アンケート調査、インタビュー調査、雇用先アンケート調査等を実施し、本学の教育成果の評価について、把握と分析を行います。こうした調査の結果をより精

度の高いアセスメントを実施するための指標の開発・作成に繋げてまいります。

(2) 2018年度に向けた学科専攻再編

「東京女子大学グランドビジョン」に掲げた教育を推進するために、100周年を迎える2018年度に学科専攻再編を目指しています。2015年度は、将来計画推進委員会のもとに設置した専門委員会を中心に、学科専攻再編を含む学部改革案を策定します。

(3) 英語教育の強化

TOEFL ITP テストの実施

2014年度より、全学生が入学時およびその後2年次の年度末に TOEFL ITP テストを受けることとしました。これにより学生は自身の英語力を、大学は本学学生の英語力を個々にまた総体として把握することができ、その後の英語学習・教育に反映させることができます。2015年度には、2年次学生の必修英語終了時にテストを実施し、2か年の英語教育の効果を測定し、翌年度以降の英語教育にその結果を生かしていきます。

キャリア・イングリッシュ・アイランド事業の強化

「キャリア・イングリッシュ・アイランド」では、ネイティブ・スピーカーによる英語トレーニング、アメリカの大学からのインターンシップ学生との交流、英語を使って社会で活躍する卒業生や企業人によるセミナーや講演会、夏季特別英語講座等、実践的な英語運用力の習得を支援するとともに、将来のキャリア展望のための知識や心構えの涵養に効果をあげています。この事業をさらに強化するために、2015年度は、学習スペースを拡充し、英語トレーニングのクラスでは、iPad を利用した英語学習や Discussion など、英語スキル向上のプログラムも開始します。

2. 入試制度改革の推進

本学の教育理念、教育内容についてより良い理解が得られるよう広報活動を進めるとともに、自己点検・評価委員会の下に2014年度に設置したアドミッション専門委員会で、入試日程や入試種別ごとの現状分析を進め、本学の教育目標に相応しい入学者が得られているか等、点検・評価を行っています。この結果を受け、入試制度の見直しに取り組むとともに、本学での学びに意欲を持つ学生の選抜を進めてまいります。

また、2020年度に大学入試センター試験に代わる新テストが導入される予定であることも視野に入れ、本学に相応しい学生が得られるよう入試制度改革を進めます。

3. 大学院研究科の充実

2015年度は2014年度に引き続き、現在の大学院の教育・研究指導体制の一層の充実を図ります。特に、学年始めの研究指導を強化し、学位論文作成をより効果的に進められるようにします。また、志願者が減少している状況に鑑み、大学院における研究内容の説明会の開催等、学生の進学意欲向上を図ります。

4. 国際交流の充実

これまで検討を進めてきた英、米、中の大学との交流協定の締結を目指します。また、現在協定校のないオーストラリア、ニュージーランドを始め、欧米以外の地域の大学との学生交換の検討を開始します。交換留学協定校を増やすことにより、学生の留学費用の軽減、留学生数の増加

を図ります。

また、2014年度に派遣先2校で開始したスタディ・アブロード・プログラム（原則、本学の後期のみの半期留学）に、2015年度にはアメリカのリベラルアーツカレッジ2校を加え、半期留学派遣学生枠を拡大します。この留学制度の導入により、学生に多様な留学機会を提供することが可能となりました。2015年度は実績を積み、2016年度には30人程度の派遣を目指しています。学生の希望の多いイギリスの大学でのスタディ・アブロード・プログラムやサマーセミナーについても、2016年度からの実施を目指します。

2015年度の語学研修プログラムは、従来の英語、スペイン語、中国語研修に加え、韓国語研修を開始します。また、学生のアンケートで希望の多いフランス語研修についても検討を始めます。同時に円安の影響もあり語学研修の費用が増大している状況に鑑み、夏期よりも比較的費用の安い春期研修について、2016年度実施に向けた検討を始めます。

海外留学をめざす優秀な学生のためには、創立100周年記念事業の一環として「新渡戸稲造国際奨学金」を設立しました。本制度による留学派遣は2015年度より始めます（100周年記念事業の項参照）。

5．FD（Faculty Development）活動

教育内容・方法の改善に向け、学生による授業評価アンケート、授業評価に関する検討会、シラバス改善、教員相互の授業参観、教員の研修、大学院の授業及び学位論文指導についての検討会等、全学的に、広い分野でFD活動に取り組んでいます。

2011年度からは連続して学内研修会を開催しており、質疑・議論を通して、FDへの理解が深まるとともに、実質的な改善も進んでいます。2014年度末に実施した学外講師による「大学教育再生加速プログラム（AP）」関係の研修を2015年度にも継続して実施し、AP事業についての理解の共有を進めます。また、外部研修へも積極的に教育職員及び事務職員を派遣し、学外の事例を知ることで、新たな視点の導入を図ります。さらに、学外研修報告を学内研修として実施し、情報を共有します。

6．キャリア教育及びキャリア支援活動の充実

本学では、2007年度文部科学省現代GPに採択された「東京女子大学キャリア・ツリー リベラル・アーツ教育に基づくキャリア構築支援」に示されるように、リベラル・アーツ教育に基づく正課内のキャリア教育とキャリア・センターを中心とした正課外でのキャリア教育との連携により、キャリア構築支援を体系的に行っています。

リベラル・アーツ教育の特色を活かし、学生が変動する社会や世界の情勢へも視野を広げ、卒業後の人生をも見据えた「進路と生き方」を考えるキャリア教育と支援を全学的に展開しています。人生設計の難しい女子学生にとって、卒業時の就職支援に留まらず、生涯を通じたキャリア構築を目指す支援活動の成果は、高い就職率にも表れています（2014年3月卒業者の就職率99.3%）。

キャリア支援としては、これまで実施してきた全学年を対象としたキャリア構築講座の他に、早い時期から将来を考えながら充実した学生生活をおくることの重要性に鑑み、2015年度からは学年別にキャリアガイダンスを始めます。

就職支援としては、特に2016年3月卒業生から企業の採用スケジュールが大幅に変わるた

め、学生が採用選考に向けた準備が十分にできるよう、キャリアカウンセラーを増員し、グループワークや個人面談による準備態勢を強化します。また、年々増加傾向にあるインターンシップについても十分な支援ができる体制を整えます。キャリア・センターは2015年度も、個々の学生が満足度の高い就職先を得られるよう支援します。

7. エンパワーメント・センター活動の充実

2013年度に設置された東京女子大学エンパワーメント・センターの目的は、生涯にわたるキャリア形成を支援するとともに、社会の多様性を受容し、共生社会の形成に貢献する本学学生、卒業生及び修了生、加えて地域住民等を支援・育成することです。

2015年度も引き続きキャリアプログラムとして、卒業生を対象としたキャリア相談、地域の女性や在校生も対象としたキャリアに関する対話会やワークショップ、高等学校教員を対象とする教科別セミナー、「女性起業家育成講座」や講演会を実施します。これに加え2015年度は、同窓会や他の女子大学と連携した事業を推進します。

本学は、2012年度に、文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「女性研究者研究活動支援事業」に選定され、同事業を推進してきました。エンパワーメント・センターは、その補助事業期間(2014年度まで)に設置されていた女性研究者支援室の事業を引き継ぎます。特に、女性研究者の環境を改善するシステムとしての研究支援員制度が、申請者・支援員双方の研究成果向上に資することとなった点を重視し、新年度も継続して実施します。加えて、キャリアプログラムの中に、女性研究者支援の視点を組み入れたプログラムを導入するなど、女性研究者支援室が行ってきた啓発活動・情報発信等も活動の中に組み入れていきます。

8. 研究所等における研究活動の展開

(1) 比較文化研究所

人文・社会・自然科学の諸領域における比較文化的研究及び日本キリスト教史・キリスト教文化に関する研究と資料の収集を継続して行います。

(2) 比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター

当センターでは丸山文庫の整理、未公開資料類の公開・翻刻等を行い、その成果を学内外に還元してきました。2012年度には研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用」が、文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択されました。21世紀の教養と知のあり方を究めるための研究及び丸山文庫所蔵資料をデジタルアーカイブ化する活動を2016年度まで継続して行います。

(3) 女性学研究所

女性学の視点を導入した人文・社会・自然科学の諸領域にわたるプロジェクト研究・個人研究、女性学関連授業の企画等、学外や海外に開かれた女性学の研究交流と教育の拠点としての活動を行っていきます。

9. 社会貢献・連携の強化

各種公開講座、正課授業の公開、心理臨床センター、エンパワーメント・センター、ボランティア・ステーション、近隣の大学や地方自治体との共同事業等を通して、社会貢献活動を進めております。

(1)東京女子大学の公開講座等

東京女子大学・杉並区教育委員会共催：杉並区内大学公開講座
夏季特別講座（高校生対象・一般対象）
チャペルコンサート/クリスマスコンサート
ブリティッシュ・カウンシル社会人英語講座 等

(2)東京女子大学の研究所企画の学部正課授業公開（両研究所の成果の社会への還元）

(3)東京女子大学心理臨床センター

地域住民・機関を対象とする心理臨床相談活動及びコンサルテーション活動
地域住民・機関を対象とする研修及び公開講座 等

(4)東京女子大学エンパワーメント・センター

一般市民も対象とした「女性起業家育成講座」、講演会 等
中学・高等学校教員対象の「高等学校教科別セミナー」(本学教員の最新の研究成果を公開し、教育の新たな視点を提供)

(5)東京女子大学ボランティア・ステーション

学内外のボランティア活動に関する情報提供
ボランティア活動に関する学生の相談への対応
学生のボランティア活動支援 等

(6)杉並区と区内六高等教育機関との連携協働

(7)武蔵野地域五大学共同事業（共同講演会、共同教養講座 等）

(8)武蔵野市土曜学校

(9)三鷹ネットワーク大学

2015年度は、社会連携・地域貢献が大学の使命の一つであり、ニーズが高まっていることから、「公開講座企画委員会」を発展的に改組して「社会連携委員会」を設置し、さらに活動を広げていきます。

・学生支援の充実

1．図書館における学習支援の展開

2007年度から取り組んできた「マイライフ・マイライブラリー」プログラムにより学習滞在型図書館が実現し、学生が授業と並行して自習やグループ学習に積極的に図書館を活用する姿が日常的に見られるようになっていきます。正規授業との連携を強め、大学の学修に必要な情報検索能力を早い段階で習得させるため、2013年度から新入生全員に基本的な情報検索ガイダンスの受講を必須としています。これにより学生は教室外学習を一層効果的に進めることができるようになっていきます。2015年度も、この実績を踏まえてガイダンス内容をさらに改善し、知の拠点であるとともに、本学のリベラル・アーツ教育を支えるための拠点として、取り組みを充実させます。

また、国立国会図書館の「デジタル化資料送信サービス」を受ける環境を整備し、2015年度から学生・教員にサービス提供を開始します。これにより、学習・研究環境の一層の充実を図ることができます。

2．奨学金制度の充実・学生への経済支援

(1) 東日本大震災被災地(災害救助法適用地域)からの入学者に対し、入学検定料・入学金の減免制度を用意しています。

(2) 本学では、現在、経済的サポートを必要とする学生ほぼ全員に、学内外の何らかの奨学金が支給できる状況にあります。2015年度も以下の本学独自の制度に加え、学外奨学金の受給拡大に向けた支援を強化します。

新渡戸稲造奨学金(経済状況を勘案しない育英型奨学金、学部新生に年間授業料相当額を4年間授与)

東京女子大学奨学金(学業成績優秀でかつ経済的支援を必要とする学生を対象に授与または貸与)

留学する学生対象の奨学金(東京女子大学国際交流奨学金、新渡戸稲造国際奨学金)

外国人留学生対象の奨学金(東京女子大学国際交流奨学金)

・教育研究環境の整備

1. キャンパス整備

(1) 新寮建築工事

築後約50年を経過し、老朽化した茜寮を建て替えます。2014年度末に茜寮を解体して着工、2015年度末の完成、2016年度の開寮を予定しています。今の時代に合った設備を備えた、安全で快適な新寮となります。定員は、茜寮の約2倍強の188名の計画です。

(2) 景観の整備

従前より、キャンパス内をいくつかの区画に分けて計画的に樹木整備を行ってきましたが、創立100周年を機に、全面的な整備を行います。2015年度は特に本館北側の密集しすぎたエリアに手を加え、教育環境としてふさわしい明るい森を実現します。

(3) 施設の保全

2012年度を初年度とする第二期キャンパス整備計画に基づき、計画的に施設の保全を進めています。特に築30年になる4号館について屋上防水、外壁防水等全体的な補修工事を行ってまいります。またこの機に誘導灯設備、自動火災報知機の交換等防災設備等を更新します。

2. 教育研究関係設備・システムの整備

(1) 2016年4月からの使用開始に向け、新しいCALL(Computer Assisted Language Learning)システム導入の準備をします。デジタルシステムに更新することにより、デジタル教材利用の利便性が向上します。

(2) 7号館教室棟に無線LANを導入し、全教室棟で無線LANを利用できるようにします。

(3) キャリア・イングリッシュ・アイランド事業強化のために、アイランドの学習スペースを拡充します。(英語教育の強化の項参照)

(4) 主体的学びを促すアクティブ・ラーニングの授業、特にPBL(問題解決)型授業が効果的に実施できるよう、教室の整備を行います。(リベラル・アーツ教育の充実の項参照)

(5) 学生・教職員向けポータルサイトを導入し、点在している情報を集約して利便性を図ります。

3. 公的研究費等外部研究資金の獲得支援と適正な執行

教育職員の研究活動充実のため、公的研究費等外部研究資金の獲得支援を行ってまいります。外部資金の獲得に向けた説明会、既に外部資金による研究を行っている教員による講演会の実施等、積極的に外部資金獲得を支援します。

また、国民の貴重な税金で措置されている公的研究費等外部研究資金の適正な執行に向けて、本学での体制・規程を整備するとともに、コンプライアンス教育を推進します。

・全学的な自己点検・評価の実施

2015年度は、2014年度までに行った各種の自己点検・評価結果や外部評価結果、2014年度実施の東京女子大学自己点検・評価の結果を受けて、問題点をどのように改善に結びつけたか、その改善状況も点検・評価します。それを踏まえて、大学基準協会の定める10の基準に基づいて自己点検・評価を行います。さらに、自己点検・評価委員会のもとに設置したIR専門委員会やアドミッション専門委員会も2014年度に引き続き、全学的な見地から現状把握、データに基づいた分析を進め、教育研究活動の見直しや改善に役立つ活動を行ってまいります。それらの活動をもとに、2016年度に大学基準協会の認証評価を受審する予定です。

自己点検・評価をとおして、本学の諸活動の「質の保証」を確保すると共に、更なる「質の向上」を目指して、改善・改革に努めてまいります。

・創立100周年記念事業

2018年の創立100周年を本学のさらなる発展につなげるために、「挑戦する知性」を基本コンセプトに、以下の記念事業を展開してまいります。

2014年12月には記念サイト (<http://office.twcu.ac.jp/100th/>) を開設いたしました。記念事業の詳細については、本サイトで広く卒業生、ご父母、在学生に配信してまいります。

1. 「挑戦する知性」プロジェクト

(1) 新渡戸稲造国際奨学金

創立100周年を記念した最初の取り組みとして、国際人の養成を目指し、世界トップクラスの大学に本学の留学制度を利用して留学する、高い目的意識と学力・語学力をそなえた学生に「新渡戸稲造国際奨学金」を設立しました。2015年度から2020年度までの間、実施する計画です。留学先での1年間の学費・渡航費・準備金(上限600万円)を授与します。

(2) 学長主催連続講演会

リベラル・アーツ教育をテーマに学長主催の連続講演会を行います。第1回は、3人の卒業生学長による講演会を6月22日に開催し、本学の教育への思い、どのような女性に育って欲しいか等を語っていただきます。主に学生を対象とし、本学で学ぶ意義を再確認する機会とします。

(3) 新たな授業の展開

主体的学びを促すアクティブ・ラーニングの授業、特にPBL(問題解決)型授業が効果的に実施できるよう、教室の整備を行います。(リベラル・アーツ教育の充実の項参照)

(4) キャリア・イングリッシュ・アイランド事業の強化(英語教育の強化の項参照)

2. 戦略的広報の展開

(1) 広報戦略の策定とその充実

本学の建学の精神、教育の理念を社会に発信し理解をいただくため、「広報の充実強化」を100周年事業の柱の一つとして位置づけました。広報活動の現状分析に基づき、重点的な施策を定め、効果的、継続的な広報活動を展開してまいります。

(2) 公式サイト の 充実

本学の教育理念、教育・研究の実績、学生の活動を、国内のみならず海外を含めたより多くの皆様に知っていただくために、大学公式サイトをリニューアルいたします。

(3) 入試広報の強化

教育職員や学生による高校訪問、進学相談会等、受験生やそのご父母、高校の先生方との双方向のコミュニケーションの機会を重視した入試広報を展開してまいります。

3. エンパワーメント・センターの充実

エンパワーメント・センターでは、100周年記念事業として、「グローバル社会に生きる女性のエンパワーメント」をテーマに、連続シンポジウムを計画しています。社会科学的な調査・研究に基づき、現代日本のジェンダーギャップの問題を解明し、その対応策を考えるとともに、女性のエンパワーメントのために必要な女子大学の新たな役割を明らかにすることを目的としています。

4. 新学寮の建設と景観整備

創立100周年記念事業の一つとして、本学で学ぶ学生の社会性・国際性の涵養を目的に、2016年度開寮の予定で新寮を建設します。新寮は留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と共同生活を行う中で、日常的に国際交流が行われる場を目指します。

キャンパスの樹木についても、100周年記念事業の一つとして整備を行ってまいります。2015年度は本館北側の密集しすぎた植生に手を加え、教育環境としてふさわしい明るい森を再生します。(キャンパス整備の項参照)

5. 100年史編纂

創立100周年を迎えるにあたり、建学の精神に基づいた本学の女子教育がどのように行われ、どのような成果を生み出して来たかを記録するものとします。また、100周年の先に本学が目指すもの、進むべき道についても記述を加えます。近代から現代にかけての日本における女性史、教育史、キリスト教史にも繋がる一大学の歴史を超えた意義のある100年史にいたします。

2015年度は、各年代ごとに項目を確定、執筆を開始し、創立100周年記念式典等の記述をも加え2018年度内の出版を予定しております。

6. VERA募金

東京女子大学創立100周年記念募金委員会を組織し、目標額を10億円とするVERA募金(創立100周年記念募金)を、2014年12月に開始いたしました。寄付金は主として、新奨学金制度、エンパワーメント・センターの充実、新学寮の建設、景観の整備事業に充当させていただきます他、指定ご寄付につきましては、そのご指定に沿って有意義に使わせていただきます。2015年度も卒業生、ご父母、法人等の皆様に趣意書をお送りし、引続きご支援をお願いしてまいります。

・管理・運営

1．経営基盤の強化

激変する社会に対応し、社会の要請にこたえる大学であり続けるために、運営体制を強化し、長期的な展望に基づいた大学運営を目指します。2014年度に引き続き、学長のリーダーシップの下、意思決定プロセスを明確にし、大学全体として教育改革を推進するための組織体制の強化と、教育改革を支える職員の能力向上をめざしたSD（Staff Development）活動の強化を図ります。また、2015年度も教育・研究の向上に必要な投資を継続して行う一方、将来の投資に向けて健全で安定した財政基盤を構築してまいります。2015年度予算は、他大学に劣後しない財務体質の構築に向け、予算全体のあり方を見直し、事業活動収支の均衡を図るとともに、教学改革に向けた戦略課題に重点的に資金を充当してまいります。

2．危機管理と対応

災害発生に備え、資材・備品の備蓄を充実させるとともに、全学的な避難訓練を実施し、災害発生時にスムーズな対応ができるよう努力を続けています。

2014年度は、大地震が発生した際に、速やかに学生・教職員の状況を確認するため、安否確認システムを導入しました。これにより学生・教職員の状況が迅速かつ効率的に把握できることとなりました。2015年度は登録率の向上に努め、実効性を高めてまいります。

3．同窓会・卒業生との連携強化

本学には5万人を超える卒業生がおられます。今後とも同窓会との協力体制を強化する一方、大学としても同窓生に対して継続的な情報発信を行い、大学と卒業生の連携強化を図ります。

以 上